東北圏におけるこれからの成長産業について
～東北の新しい産業の可能性を考える～　ー開催レポート

● 開催日時

平成 22 年 11 月 16 日(火)　（14 時 00 分～17 時 30 分(開場 13 時 30 分）

● 開催場所

いわて県民情報交流センター（アイーナ）　７Ｆ　アイーナホール
（岩手県盛岡市盛岡駅西通１丁目７番１号）
主催者　東北圏広域地方計画協議会（東北経済産業局、東北地方整備局、岩手県）

● プログラム

14：00　開会／開会挨拶
14：05　取組事例紹介「とうほく自動車産業集積連携会議の取組」
14：40　基調講演「東北圏におけるこれからの自動車関連産業」
15：40　休憩
15：50　パネルディスカッション「東北の新しい産業の可能性について」
17：20　閉会挨拶
17：25　閉会

▲当日配布プログラム

● 出演者

『基調講演』
講演者　小林　英夫　氏　（早稲田大学大学院　アジア太平洋研究科 教授）

『パネルディスカッション』

○コーディネーター	小野寺 純治 氏	岩手大学地域連携推進センター 副センター長・教授
○パネリスト	及川 久仁子 氏	及源鋳造　株式会社 代表取締役
	鈴木 高繁 氏	有限会社　K・C・S　代表取締役 (岩手県　技術アドバイザー)
	田村 昌則 氏	株式会社　エッグデリカ 株式会社　サラダファーム　代表取締役
	谷村 久興 氏	谷村電気精機　株式会社　　代表取締役会長

○ 開会挨拶

開会にあたり、主催者を代表して岩手県政策地域部長の加藤氏より開会の挨拶を致しました。

○ 取組事例紹介「とうほく自動車産業集積連携会議」の取組

岩手県商工労働観光部企業立地推進課総括課長の保 和衛(たもつ かずえい)氏より「とうほく自動車産業集積連携会議」の取組みの概要と今後の方向性についてご説明致しました。

東北の自動車産業の特徴

- 自動車というのは非常にたくさんの工業的要素が詰まっており、それに伴い多くの企業が関わり、多種多様な企業が関係します。地域に自動車産業が育つということは、その地域にとっての産業の振興という点から非常に大きな意味を持っています。
- 東北圏における自動車産業の集積は、平成 5 年に関東自動車工業(株)が岩手県へ進出して以来、約 20 年弱の間に続々と関連企業が集まってきたという経緯があります。
- 東北圏の自動車産業に取り組む土台としては、従来より電子電気系の企業が多く存在することや機会加工や鋳物などの伝統工芸の存在、さらには毎年 8000 人という理工系の若い人材が輩出されるという下地がありました。
- 一方で、東北圏は長年の間、人材供給県であり、行政としてはなんとか地域に雇用の場を創出したいと考えておりました。そのような背景のもと自動車産業の積極的誘致に至った次第です。

自動車産業集積連携会議の取組み

- 岩手県の場合は、行政として自動車産業の振興に舵を切ったのは平成 15 年度になります。その後、平成 18 年度に県内の自動車関連企業で構成するいわて自動車関連産業集積促進協議会を発足しました。時期を同じくして宮城県と山形県、青森県、秋田県、福島県でも同様の協議会が発足したことから一緒に協議会を開催するようになり「とうほく自動車産業集積連携会議（以下、連携会議)」が誕生することになりました。
- 連携会議の取組みとしては 6 つのテーマを掲げており「①交流機会の創出」「②技術展示商談会」「③取引拡大の支援」「④研究開発の促進」「⑤人材の育成」「⑥トップセールス」ほかになります。
- 特徴的な取組みの一例としては、これまで自動車に関わりのなかった企業の皆様に、自動車を細部まで知ってもらおうと自動車をボルト・ナットレベルまで解体して展示いたしました。実際に来て頂き、手で触って良く見て分かってもらおうという取組みです。

新たなビジョンと今後の方向性

▲保氏による取組事例紹介

- 今年６月の連携会議の総会時に「新・とうほく自動車関連産業振興ビジョン」を策定しました。「人材の育成・供給拠点」「幅広い分野の企業集積」「次世代技術の開発拠点」「高品質・高機能部品の戦略拠点」「世界に向けた完成車・部品供給基地」の５つの戦略から成ります。
- 今後は、「人材育成」や「産学官が一体となった研究開発」「地場企業の育成と発掘」に力を入れて取り組みます。
- また、この自動車産業の取組みは単に自動車産業に留まらず、今後の東北圏全体の連携というものの可能性を示しているのではと思います。

○ 基調講演　「東北圏におけるこれからの自動車関連産業」

基調講演では「東北圏におけるこれからの自動車関連産業」と題して、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科の小林教授にご講演頂きました。

▲小林氏による基調講演

プロフィール
東京都出身。東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程単位取得終了後、東京都立大学経済学部助手、駒澤大学経済学部助教授、駒澤大学経済学部教授を経て現職。専門はアジア経済。日本自動車部品産業研究所所長。

世界の自動車関連産業の動向

・自動車産業は、日本の雇用における出荷額の 20%平均近くを占めるなど雇用効果が非常に大きく、高付加価値の製品を作る余地と可能性が非常に大きい産業になります。
・また、自動車産業は地域産業であり、自動車産業を育成していくという事は文化的にも社会的にも経済的にもさらにいえば政治的にも非常に大きな意味を持つという産業であります。
・近年、世界の自動車産業構造は大きく変化しているところであり、これまで自動車生産の中心であった日欧米に加え、中国、インド、ブラジル、ロシアでの生産量が急速に向上しています。
・また、中国・インドの「都市中間層」と呼ばれる十数億規模の人達の生活の近代化を背景とした新興アジア市場における競争も激化しています。今後は、欧米先進国向けの自動車のみを生産するのではなく、アジア市場まで含めた複眼的な視点で世界の自動車産業において競争していく必要があります。

激しい技術変化への対応と東北の目指す産業の姿

・現在の自動車産業は大変厳しい技術変化に直面しています。
・環境問題への対応のため、CO2 排出量を削減するためプラグインハイブリッドの開発もその一つであります。
・エンジンの動向として、今後、ガソリンエンジンを改良させながらプラグインハイブリッド EV、に進むのか、一気に EV にいくのかなど、まだその見通しはついていない中にあり、今後は世界の動向を踏まえ対応していく必要があります。
・このように激しく変化する技術への対応が求められる中で、東北圏の産業が目指す姿としては、車両生産過程のアプリケーション開発の前倒しを図りながら、生産の現地化と開発の現地化を進めざるを得ない状況にあると考えます。
・カーメーカー、パーツメーカにおいては、日本の一部地域だけで設計するのではなく、設計のある部分に関しては、東北圏において実施できる体制が望ましいと、私は考えています。
・東北圏はそのために、開発設計部隊を迎え入れられるような教育体制をもっと早急に作るべきです。東北圏が連携して自動車産業の開発や設計をある程度バックアップできるような人材をさらに大量に育成する必要があります。

産学官による国家的規模での連携の必要性

・日本における産業の競争力強化のためには、韓国もそうであるように、「産学官」による国家的規模での連携が必要です。
・「産学官」によるアイアントライアングルで連携を図り、日本も良い意味でお互いにアジアの人たちと競争しながら win-win 関係を作るべきだと私は思います。
・東北圏においても「産学官」の連携により、新産業の発展並びにすばらしい東北圏の創出につなげて欲しいと思います。

▲基調講演の様子

○ パネルディスカッション
「東北の新しい産業の可能性について」

パネルディスカッションでは、小野寺純治氏をコーディネーターに迎え、多様な分野のパネリストの方々から「東北の新しい産業の可能性について」語っていただきました。

▲ パネルディスカッションの様子

○コーディネーター
小野寺純治 氏
岩手大学　地域連携推進センター
副センター長・教授

○パネリスト
及川 久仁子 氏
及源鋳造　株式会社　代表取締役

鈴木 高繁 氏
有限会社　K・C・S　代表取締役
(岩手県　技術アドバイザー)

田村 昌則 氏
株式会社　岩手エッグデリカ
株式会社サラダファーム代表取締役

谷村 久興 氏
谷村電気精機 株式会社
代表取締役会長

話題提供　ーコーディネーター　小野寺氏ー

・今回のパネルディスカッションは「東北の新しい産業の可能性について」をテーマとして討論を進めて参ります。
・パネリストには東北のものづくり産業の最前線で頑張っている４名の方々にお越しいただきました。
・パネリストの方々の経験をふまえて、現在の取組みについてお話し頂きます。
・その後に、新しい東北ならではの産業をどう興していくべきなのか、また従来の産業をどう新しくしていくべきかといった視点より、今後の課題と取組みの方向性についてお話頂き、新しい産業の形が少しでも見えるような議論に繋げたいと思います。

企業の連携・融合による強い企業作り・新しい物づくり　ーパネリスト　鈴木氏ー

◆現在までの取組み

・北上への企業誘致の経験、岩手県技術アドバイザーとしての経験を踏まえて発言致します。
・まず、岩手県の現状としては若い人達が就職のため都会へ出て行くという傾向が続いています。その背景には、若者が働きたくなるような魅力を感じる企業の少なさにあります。
・そのような状況を脱却すべく、強い企業作りのため取組み始めましたのが「プラン 21」事業です。
・同種の事業をしている企業同士で共同体を作るところからスタートし、中京地区の会社と比較しても遜色のない集団を作ることに成功しました。まだ、小さなスタートを切ったばかりではありますが、このような取組みを核にして、強い企業作りの輪を拡大していきたいと考えています。

◆今後の課題・これからの取組み方向性

・今後の課題としては、岩手県内でこれまで作られていないものを作れるようになること、自動車産業の一部を自力で生み出していくということが挙げられます。
・これまでの取組みを通じて、これまで輸入に頼っていた医療器具を国産で作れるようになったという経緯もあります。
・岩手県の中でも「異業種が手を組むと新しい物が出来る」という実態を見せることは周囲への原動力になると思います。
・今後の取組みとしては、更に東北圏７県の企業の技術と製品の棚卸しをして、企業と企業を結びつけあるいは技術を組み合わせることで、新しい物づくりやビジネスプランに繋げていきたいと考えております。

パネリスト　鈴木氏 ▲

伝統のモノづくりとマーケティングの現場から　ーパネリスト　及川氏ー

◆現在までの取組み

▲パネリスト　及川氏

・岩手の伝統工芸である南部鉄器の製造と販売をいたしております。
・長い間南部鉄器における商品開発は形状だけのものでありましたが、現在はライフスタイルや時代の変化に対応した商品をつくることで伝統工芸を継続するに至っております。
・海外戦略という視点で見ると、日本の『伝統工芸』であるが故の強みが有り、海外では日本の文化・品質という点で高評価を頂いている状況にあります。
・最近では南部鉄器をよく知らない若いバイヤーが増えたことと、使用した経験もないのにインターネットで安売り販売をする業者が増えたりと、私たち作り手にとっては流通が不安定な状態にあります。そのような事情から卸売りだけではなく直接情報発信と販売をする試みを始めております。
・ブランド作りは卸問屋に頼るのではなく自分たちでやるというのが私たちの取組みです。

◆今後の課題・これからの取組み方向性

・現状として「職人」ではなく「技術者」が必要になってきている状態にありながらも、同時に江戸時代から使ってきている伝統的な技法も継承し習得していく必要があります。
・今後の課題としては、伝統技法の継承者を増やしていくということです。
・グローバル化に向けては、相手との「違い」を認識し、しっかりと相手に合わせてカスタマイズしていくことが重要です。南部鉄器の良い所を取引先の国の方々のやり易いようにチェンジしてお渡しする、いわば「文化を輸出している」という気持ちで取り組んでいきたいと思っております。

持続可能な農産業の確立　ーパネリスト　田村氏ー

◆現在までの取組み

▲パネリスト　田村氏

・「食料生産はすべての産業の基本である」という信念のもと、食料生産をベースに農業にかかる事業展開をしております。
・現在、日本の農業は働き手の減少や高齢化等の様々な問題を抱えています。
・そのような問題を解消すべく、持続可能な農産業を確立するために、『体験型農場の提供』事業を展開しているところであります。
・体験型農場とは「観光・飲食・農業・園芸」のアイテムが相互に関連し合う仕組みになります。
・体験型農場に関する計画は、平成 21 年度岩手６次産業チャレンジ支援事業の対象事業となり、現在その取組みが加速化してきております。
・これまでの主な取組みとして、農業を通じた地元の若い世代の優先雇用や幼児・小学生への学習機会の提供などがあります。

◆今後の課題・これからの取組み方向性

・今後は、これまでの「モノ」づくり中心の考え方から、楽しみながら癒しの場を提供する「コト」づくりという考え方への転換を図ってまいります。
・ここでしか出来ない体験、ここでしか作れない思い出を提供するために四季を楽しめる場、皆様が癒しの場を求められる農業の場の提供を目指しているところです。
・これからの取組みとしては、近隣の農業者の方々、観光業者の方々と連携を強め地域と連動し一緒に成長できる仕組みを構築したいと考えております。
・また、農業では小回りのきく地域の振興策というモデルケースとなり、これまで他の企業がやっていない取組みについて、伸ばしていきたいと考えております。

「ものづくり」は「人づくり」　ーパネリスト　谷村氏ー

◆現在までの取組み

▲パネリスト　谷村氏

・私どもの会社は電子部品関係の生産を経て、現在は主に医療機器あるいは福祉機関の部品の製造をしております。医療機器は色々と法律がありまして、特に海外へ輸出する場合は認証・監査を通らなければなりません。その国の基準に合わせた製品を作らなければならないという、そういった厳しい仕事をやってきた中で一番大切な事は人材育成だという事を教わりました。

・主な取組みといたしまして、岩手県の『ものづくりネットワーク』を立上げ、人材育成に取り組んでおります。こういった活動で岩手県から出なくても地元に就職出来るようにして人口の減少を防ごうという事で活動をさせて頂いております。私は「ものづくり」は「人づくり」なのではないかと思っております。

◆今後の課題・これからの取組み方向性

・今後の課題は、小・中学校に対して文科省でやっているキャリア教育の支援です。当初は期間が短かったインターンシップの期間を延ばしたりすることで、卒業したあかつきには即戦力になるような教育をしております。それから父兄に対しても企業訪問等の応援をしております。

・また若手産業人に対しての育成を行っており、毎回 25 人ずつ輩出しています。

・グローバル化という視点においては、風俗・集団は違っても人間同士ですから、相手を信頼するという事につきます。それから『レベル合わせ』をするという事です。日本では通用する事が海外では通用しない、またはその逆もあるという事です。

会場からの声　パネルディスカッションを受けて、会場の参加者からコメントを頂きました。

ー東北地方整備局　副局長　澤田　和宏氏ー

・本日のディスカッションのキーワードとして出ておりました『人との繋がり』というものが非常に大事であるという事を感じております。

・人と人が結びつき、手を合わせ、協働できるような仕組みづくりに向けて、我々も率先して行動したいと思いますので、引き続きご指導頂ければと思います。

会場内の様子▲

ー小林　英夫氏ー

・本日は自動車という観点からお話しさせて頂きましたが、自動車産業に限らず根底にある重要な部分というものは共通であると痛切しています。

・共通する重要な点は、やはり『人』なのではないかと思います。そして『信頼』『ぶれない持続性』といった点があるかと思います。

・今回のディスカッションを通じて、東北圏においては、共通する重要点に加え、さらに『伝統・特性を生かしながら東北圏ならではの人づくり』や『信頼関係の構築』という独自の取組みが多く実践されていることが分かりました。

・今後、産業を振興する上で欠かすことの出来ない『人づくり』に力を入れて取り組んでいる事がわかり、東北圏の将来に非常に希望を持ちました。

新たな産業の創造に向けて　コーディネーター　小野寺氏からの提言

▲ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　小野寺氏

・「イノベーションによるベンチャー企業こそが「創造的破壊」を通じて経済発展の担い手になる（J.A シュンペンター)」という言葉があります。
・イノベーションとは、新しい技術の発明だけではなく、新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらす自発的な人・組織・社会が新しい変革であるという事です。
・そしてそれまでの物、仕組みなどに対して新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こす事、これが岩手並びに東北圏には必要だと感じました。
・次にオープンなイノベーションについてです。地域は総合力でなければなりません。会社が自分の技術を隠すのではなく、お互いに出し合い、組み直すという事が必要だろうという事を私も大事だと思っております。
・新たな産業創造に向けては、地域における個性というのが一番必要であります。
・もう一つ大事なのが多様性です。多様な産業があってからこそ足腰の強い産業があると私は思います。
・そして人材育成です。これを成すためには長期を見通したぶれない国・県の対策をしっかりと作っていかなくてはならないという事だと思います。
・最後に産学官などの多様な連携です。一つのテーブルで色々な事を考え検討していく。こういった事をしながら岩手県、そして東北圏のビジョンを作っていくという事が必要だと思いました。

○ 閉会挨拶

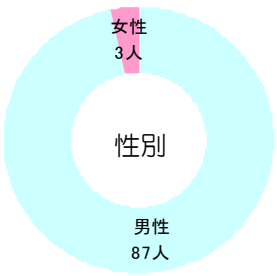
閉会にあたり、主催者を代表して東北地方整備局 東北圏広域地方計画推進室長（副局長）の澤田氏より閉会の挨拶を致しました。

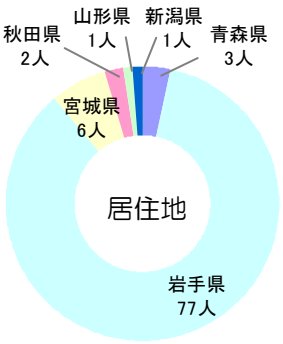
○ 会場アンケートの集計結果

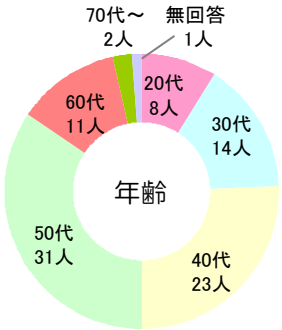
会場にお越し頂いた皆様より、シンポジウムや広域地方計画についてのアンケートに回答頂きました。

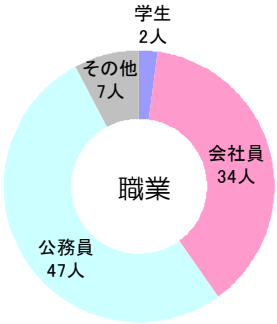
◆参加総数 250 名／アンケート回答者 90 名／回収率 36%

◆回答者の属性



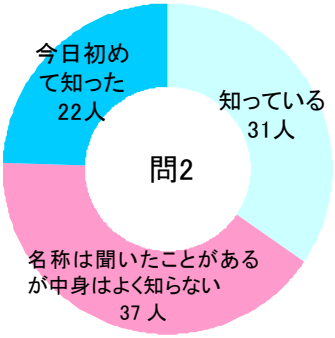




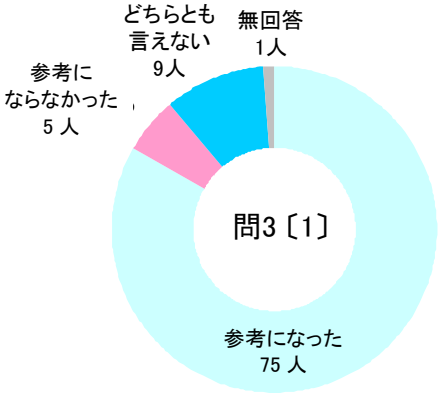


◆アンケート結果

東北圏広域計画の認知度について

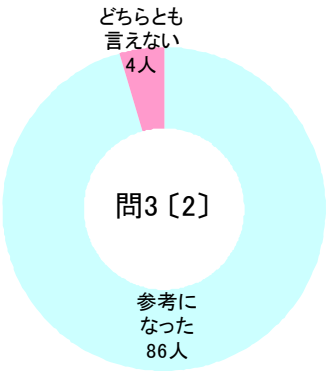


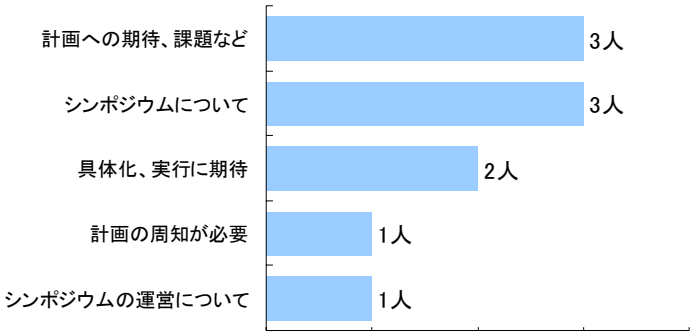
基調講演の内容について



◆アンケート結果

パネルディスカッションの内容について



広域地方計画について（期待など）

回答者 10 名